

平成29年舞鶴市議会意見交換会報告書

開催日時	平成29年4月28日(金) 午後7時から午後9時3分まで
開催場所	舞鶴市役所 本館4階 議員協議会室
テーマ	舞鶴市議会の取り組みと議員定数について
参加市民 (敬称略)	各種団体の推薦による市民8人 渋谷恵一 公文禮子 伊庭節子 岡本淑恵 原口巨誉 川上英明 嵯峨根仁史 植本浩明
出席議員	議員14人 (オブザーバー：上野議長) 尾関善之 (座長) 伊田悦子 上羽和幸 亀井敏郎 桐野正明 小谷繁雄 後野和史 高橋秀策 西村正之 林三弘 福村暉史 眞下隆史 水嶋一明
傍聴者数	12人

内 容

【概要】

開会后、議長の挨拶に続き、議会の取り組みについてパワーポイントを用いて報告した後、議員定数について、各会派から現時点での考え方を発言し、参加者8人からのご意見等をお聴きした上で、意見交換を行った。

【議員定数について】

1 各会派の現時点での考え方

(創政クラブ議員団)

定数については、確たる根拠がない中で、討論している。現段階では、現状維持、削減の二つの意見が出ている。現状維持については、他市に例をみない複眼都市を形成していることや国の出先機関があることから、類似都市とは大きく違う。会派では、議員は地域を代表して出てきているといった面を持っており、地域の課題を行政に届け、地域の安心安全、地域の発展等に関わることを考えれば現状維持との意見がある。一方、削減については、市民感覚の意見として削減し、若い方、子育て世代の方が、議会活動できるような環境整備が必要なため削減との意見もある。本日の意見を参考にし、現状維持か削減かは引き続き議論していく。

(新政クラブ議員団)

前回、2名削減があったが、その結果が出ていないもとの削減は時期尚早であるとか市民目線で考えたとき、他市との比較をした時に現在の議員定数は多いなどの意見があったが、再検討した結果、結論としては、定数削減やむなし。その方向で検討しているが、定数削減を確定したわけではない。また、具体的な削減数は決めていない。現時点の中間報告。市民目線から見て定数削減が妥当という意見が多数であれば、定数削減やむなし。現状維持が妥当という意見が多数であれば、その方向で再検討していく。今後、意見交換会の結果を参考に決めていく。

(公明党議員団)

意見交換会での意見を聞き、議会で議論を尽くしたうえで、最終的な結論を出す。昨今の状況から議会の果たす役割は一段と高まっている。民意を市政に反映させるためには、安易で急激な定数減は、少数意見が届きにくくなる恐れがあるため、慎重に検討す

べきと考えている。但し、それは議会自身が機能を発揮するために常に改革を行い、成果を上げていける議会でなければ意味をなさないというのが民意であると捉えている。その上で、人口減少に歯止めがかかっていない現状では、市民感情としては、定数削減を望む声が出るのは自然である。市民に理解され指示されてこそ、議会の活性化も進み、その機能も発揮されることから、一定の定数削減はやむを得ないと考えている。

(日本共産党議員団)

議員が多いとか少ないとかが問題ではなく、議員がどんな活動をしているかが問題。議員は、市民の意見をよく聞き、それを政策化し、提案すること。市長提案が、市民の福祉の増進にとってどうなのか、市民の立場に立って、市民目線でしっかりチェックしていく監視の役割も重要。議会が市民を代表し、審議する場である以上、全市民を代表するにふさわしい議員数が必要と考える。議員定数の削減は、多様な市民の意見を反映するという、本来議会が持つ機能を低下させ、結果として自治体を市民から遠ざける役割を果たすものとする。よって、議員定数は現状維持でよいと考えている。

(鶴翔会議員団)

前回の定数削減から人口が大幅に減少。人口減少からしても、現状では少し多いのではと考える。近隣自治体の定数を参考に適正な定数を考慮しても、削減の方向は避けられない状況。このようなことから、経費削減、適正な議員定数の見直しの方向性を認め、現時点では、定数減が望ましい。今後、本日の意見交換会での貴重な意見を参考に更に検討を重ねる。

(会派に所属しない議員)

議員定数の尺度がない中で、可能な限り定数減とする必要がある。人口減少により、厳しい財政状況が見込まれる中で、行財政改革が実施されており、議会としても対応すべき。議員数を減らせば、市民の意見は反映させることができなくなり、十分な審議も行われなことも懸念されるが、各議員の努力で補える。4人減の24人にしても議会の機能を低下させることなく役割を發揮できる。このようなことから、定数削減すべきと考える。また、これからの地方議員のあり方として、従来の地域代表を選ぶという観点から、市全体を議論し、かつ議員としての活動をするのが望ましいと考えている。

2 市民からの意見

(1) 削減すべきでないとの意見

- ・何人が適切であるか分からないが、ただ、人口が減ってきたから議員数を減らしていくということには賛成しかねる。
- ・市民福祉の増進のために、議員活動が市政に反映できる人数が望ましい。
- ・今まで定数が多いとか、少ないとか思ったことがない。
- ・人口が減っているのに、議員を減らすのは自然な流れなのかと思っていたが、減らすと市民の声を聞きにくくなる。偏った考えになるのではないか。
- ・やみくもに議員を減らせばよいというものではない。減らせば当然、細かな意見が吸い上がってこないことでの弊害も出てくるのは当然である。
- ・問題が多様化する中で、一人ひとりの議員の使命と期待される部分が年々増えてきている。減ることで問題に対応できるのか心配。単純に減らせばいいとは思わない。
- ・議員を減らすことよりなぜ舞鶴市は人口減なのか。人口減への対策をどうするのか。そういう発想に切り替えてほしい。

- ・今のままでよい。まずは議会がやるべきことをやってほしい。
- ・少人数になれば議論が深まるというものではない。人口が減ったから議員定数を削減する。そんな機械的であっていいのか。
- ・人口減、財政難といって議員を減らしても財政的には議会の予算は市財政の1%である。定数削減に市民の同調もあるが現状維持でよいと考える。財政難を根拠とした削減はおかしい。

(2) 削減すべきとの意見

- ・資料を見て、同じ規模でも定員が少ないところがあると知った。削減も悪いことではないということであれば、もっと合理化して削減し、質の高い議員活動をし、議会に反映してほしい。
- ・人口が減る中、減らすのは自然の流れかと思っていた。
- ・人口が減ってきているので定数を減らすというのが自然の流れの意見で納得できる。
- ・会社でいえば、売り上げが上がらないなら、社員を減らすのが鉄則である。
- ・確実に人口が減る中で、定数を減らすのは当たり前と考える。

(3) 議員定数に係るその他意見・発言

- ・今回の意見交換会を参考に最終的には決めたいというが、非常に気が重い。
- ・削減問題について特別委員会を設けたのか。
- ・議会がどういう活動をしていくのか分からないのに人数を聞かれている感覚。目的ありきで人数は決まる。多いか少なか聞かれても答えに困る。
- ・市民にとってどうすることが一番メリットがあるのか考えてほしい。
- ・議員の姿が見えない中で、増やしても、現状でも、減らしても同じであると思う。
- ・京都府下や全国類似団体との比較資料だけでは判断できない。
- ・これまで議会の中で、どれだけ議論してきたのか。
- ・市政の課題を解決するために、それに見合った議員数を確保すべきである。
- ・他市町村の方向は削減なのか。
- ・定数よりも議員活動の内容が問題である。
- ・定数を増やして報酬を減らすという考えもあるのではないか。

【その他意見】

- ・市民の中にとけ込んで市民目線で考える議員が望ましい。
- ・商売人からすれば、この意見交換会の日程が市民感覚なのかと思った。
- ・委員会の数を減らせば議会が機能するのか。
- ・政策立案をすることが見えにくい。
- ・議員の活動が見えない。
- ・経費より内容が大事である。
- ・議員が市民の中へ入っていくことは歓迎する。

【意見交換のまとめ】

議員定数のあり方について、11月末までには結論を出すこととしているが、市民の皆さんからの貴重なご意見を参考にさせていただき、今後、議論を重ねることとする。